10月会山行　　未丈ケ岳集中

手嶋、古野、藤岡

○日程：10／18（土）～19（日）　前夜発
○場所：未丈ヶ岳　10／19（日）　12：30　山頂集中
○担当：手嶋、古野、藤岡
○地形図：未丈ヶ岳、奥只見湖、（高幽山）
○ルート、およびパーティ割り：

A．黒又川赤柴沢	大田原　斉藤健　小暮
B．黒又川水頭沢	浅井　田邊　煤孫
C．黒又川御神楽沢	笹川　大野　鈴木
D．大鳥川せいの沢	佐藤(耕)　山口　古野
E．大鳥川滝沢左俣	山川　木下　石井
F．大鳥川滝沢右俣-左俣	矢野　棚橋　佐貫
G．黒又川御神楽沢支流（日帰り）	中村　岩田　伊藤　栗原
H．金城山、未丈ケ岳ハイキング	田辺(利)、手嶋、三坂

秋のこの時期の会山行は、意外と場所選びに苦労する。普段東北方面や南会津、会越国境方面に行くことが多いのだが、東北方面については有力となる須金山塊や栗駒山方面がこの6月の大地震で壊滅的な被害を受け、沢崩壊や地盤の緩み等の危険があることももちろんだが、復興に向け苦労されている現地に遊びに行くというのも、やはりお世話になっている地域だけに多分に失礼な気がした。南会津や会越は昨年も行ったということもあり、今年は思い切って越後にしようかと考えた。

もちろん越後の沢はどこもそれなりに厳しく、この時期あまり水をかぶったり泳いだりする山域は避けた方が無難である（結局しっかりと泳いだパーティはあったようだが）。まあそんなことで困難性はそれほど高くなく、幾分南会津的様相を兼ね備えているこの未丈周辺としたのである。

担当は藤岡、古野、手嶋の3名が当てられていたのだが、手嶋は夏の沢でヒザをひねってしまってまだ沢は難しい状況、古野も一昨年の山スキーでひねったヒザがまだ治らず、沢にも杖をついて行く状況、そして最悪なのは今回一番がんばっていろいろと考えていた藤岡が、直前の山行でこれもまたヒザをひねって靭帯を伸ばしてしまい、山は一切無理な状況に陥ってしまったという、まさにヒザひねりにしてやられて担当総崩れという状況の中での会山行であった。

そんな中で、古野は何とか今回の中ではもっとも易しいせいの沢に参加、手嶋はハイキング（初日だけだが）に参加することができ、各パーティの山行成功で無事頂上集中という満足な結果に終わったのであった。

天候が2日間良かったことも味方した。私（手嶋）の場合初日にここからはほど近い金城山へ登山道から登ったのだが、上部での美しい紅葉と青い空のマッチングは本当に

見事だった。まさにハイキングは天候だ、ということを再認識したのである。

もちろん沢だって天気が良い方がいいに決まっており、私は泣沢の広場において下山してくる仲間を迎えたのだが、午後の傾いた秋の日差しの中降りてくる連中は、皆満足しきったとてもいい顔をしていた。下では昼頃までビールを飲みながら無線を開けつつ地べたに寝転がっていたのだが、集中時間間近になるとパーティ同士の無線のやり取りが聞こえてきて、その中で「水頭沢パーティ、集中まであと14分ですから、よろしく。」という棚橋の声が聞こえてきたのは笑えた。

結局水頭沢パーティは12時半の集中に2分ほど遅れて到着したということ。自分が行った経験でも、水頭沢は下流部にしか泊まるところがなく、またむしろ小さめの沢であるにも関わらず、両岸は立っていて登れない滝が続き、結構巻きに時間が要した小粒ながらもピリリときつい沢だった覚えがある。このパーティが遅れたのもうなづける気もする。

一方、滝ノ沢左俣や右俣、あるいは赤柴沢は中程度の難しさであるが、さすがに以前ここを他パーティが溯行したよりもずっと早いスピードで溯行し、集中時間よりも大分前に未丈頂上へと到着したようである。皆さん到着後は頂上東側に広がる広大な草原でくつろいだとか。ここは本当にいいところだ。ちなみにここから下に続いている踏み跡は、まだ大鳥池の方までつながっているのであろうか？

ともかく会山行無事成功で何より。9月に予定されていた巻機山集中は悪天候のために中止となり、春の浅草岳集中に続けてもう一度頂上集中を成功させたかったわけだが、その念願がかなって本当によかった。メンバーの皆さん、どうも御協力ありがとうございました。そして担当の皆さん（自分も含め）、どうもお疲れ様でした。

毛猛　黒又川赤柴沢（四十峠越）

斎藤（健）

【日時】　2008 年 10 月 18 日（土）～19 日（日）
【メンバー】Ｌ大田原、斎藤（健）、小暮（写真）

赤柴沢といえば、通常３日の日程が欲しいところ。ところが、赤柴沢を通って２日目の正午に未丈ヶ岳に集合という指令を受けてしまった。果たして我々は集合時間に間に合うのだろうか？？？

■2008/10/18（土）晴れ

泣沢沿いの登山道を下っていき、何本かの沢を渡渉したり鉄橋で渡ったりすると、すんなりとゼンマイ道の入口を示す赤テープを見つけてしまった。ゼンマイ道には、明瞭な踏み跡と分かりやすい赤テープが付いていて、1192m地点まで順調に高度を稼いでいく。大田原さん曰く、「このアカマツ林には松茸があるはずだ。」とのことから、夕食の松茸御飯を想像してしまったが、それは、思い過ごしであった。ただ、そろそろ紅葉が始まってきていて、色とりどりな対岸の山肌が綺麗だ。1261mの三角山までは灌木をよけながら進んでいく。ここも比較的歩きやすいが、落ち葉が舞い、小暮さんは鼻が出てくると言っている。

三角山頂上の端まで進み、コンパスを東に合わせ下降開始。灌木が丁度よく生えていてスムーズな下降。１０分もしないうちにゼンマイ沢に到着し、水もすぐに出てきた。なんて、楽なんだ♪

【三角山までの紅葉の藪】

ゼンマイ沢では、登ったら楽しそうな小滝を次々とクライムダウン。途中、ナラタケやキクラゲをゲット。右手から二条の滝が水量１：１で交わると、イワナの姿がちらほら目立ちだし、あっという間に赤柴沢の出合に到着。赤柴沢は右手から直角に入ってくるので、間違って赤柴沢を下降しないように注意が必要だ。

イワナは見るだけなので、キノコを探しながら進むが、なかなか、これといったものがない。左岸側の台地の上にキノコが生えていそうな倒木を発見し、上がってみると、そこは４人用テントが何張りも張れそうな良いテント場であった。あまりの順調具合に、まだ２時前であったが、ここをテント場に決め荷物を下ろした。

【ゼンマイ沢の下降・飛び込み】

あとは、キノコ探しと薪集め。小暮さんは、クレソンやミズの実を集め、大田原さんはかなり先の方の支流に入り買い物袋一杯のナラタケを収穫してきた。

夜は、満点の星空のもと、今年最後になるかもしれない焚き火を眺めながら過ごす。収穫物を使った料理は、なかなか豪華で皆で舌鼓を打った。

■2008/10/19（日）晴れ

今日は、それほど急ぐ必要はない。太陽がそこそこ昇り、水をかぶってもいいかなと思える頃に出発。恋の季節なのか、どの淵にもよく肥えたイワナが数匹ずつ。その中を割って入る我々は、お邪魔虫間違いなし！腰まで浸かってへつったり、背の立たない淵を泳いだり、滝の真ん中をシャワーを浴びながら登ったり、楽しい遡行が続く。巻けば簡単なところも、ボルダリングごっこで小滝を登っていく。ダワノ沢には入らず直進し、真っ直ぐ沢形を辿っていくと、山頂から１５０ｍぐらい西側の稜線に出た。こちら側の稜線は弦に悩まされることもなく比較的快適な笹と灌木の藪漕ぎ。やがて先着パーティーの声が聞こえてきて未丈ヶ岳の山頂に到着した。”隣の藪は薄い”の格言を守らず右往左往していた私は少し遅れての到着であったが。

最後のパーティーが来るまでの間、草原で昼寝をしたり、キノコ汁を御馳走になったりしながら、秋の気持ちよい山の空気を楽しんだ。

［情報］

事前情報では、赤柴沢にはテント場適地が少ないと言われていたが、ゼンマイ沢から上流の左岸側には、我々が泊まったところ以外にも泊まれそうな広い台地をいくつか発見。また、ダワノ沢出合も台地になっていて宿泊可。

□メンバーの感想

当初、禁漁期に赤柴沢へ行くのは気が進まなかった。しかも慌しい日程。会山行だからそれも仕方ないという気持ちで臨んだが、ふたを開けてみれば、踏み跡と実力あるメンバーの皆さんに助けられて、ゆとりある山行となった。キノコ、紅葉を楽しみ、悠々と泳ぐイワナを眺めて、小春日和の山頂で集中。忘れがたい思い出となった。(by 大田原)

久しぶりに、沢の集中会山行に参加できて、とても楽しかった。赤柴沢という非常に長いコースで少々心配だったが、山越えの踏み跡が思ったよりもはっきりしており順調に遡行できた。赤柴沢は魚影も多く、小滝が連続して楽しい沢で今年を締めくくる沢としてとても良かった。(by 小暮)

今年の夏は、雨に祟られ、なかなか泳ぎの沢に行く機会に恵まれなかったが、会山行で赤柴沢のパーティーに入れてもらうことができ、一瞬やったと喜んだ。ところが、ルートを聞いてみると、黒又川をどんぶらこと泳ぎ下るルートではなく、四十峠経由の山越えのルートだとか。他のパーティーは、沢沿いに未丈岳に突き上げることを考えると、最も水と縁遠いルートで、糠喜びとは、まさにこのこと！！ (by 斎藤)

【グレード】ゼンマイ沢下降と赤柴沢遡行を合わせて３級

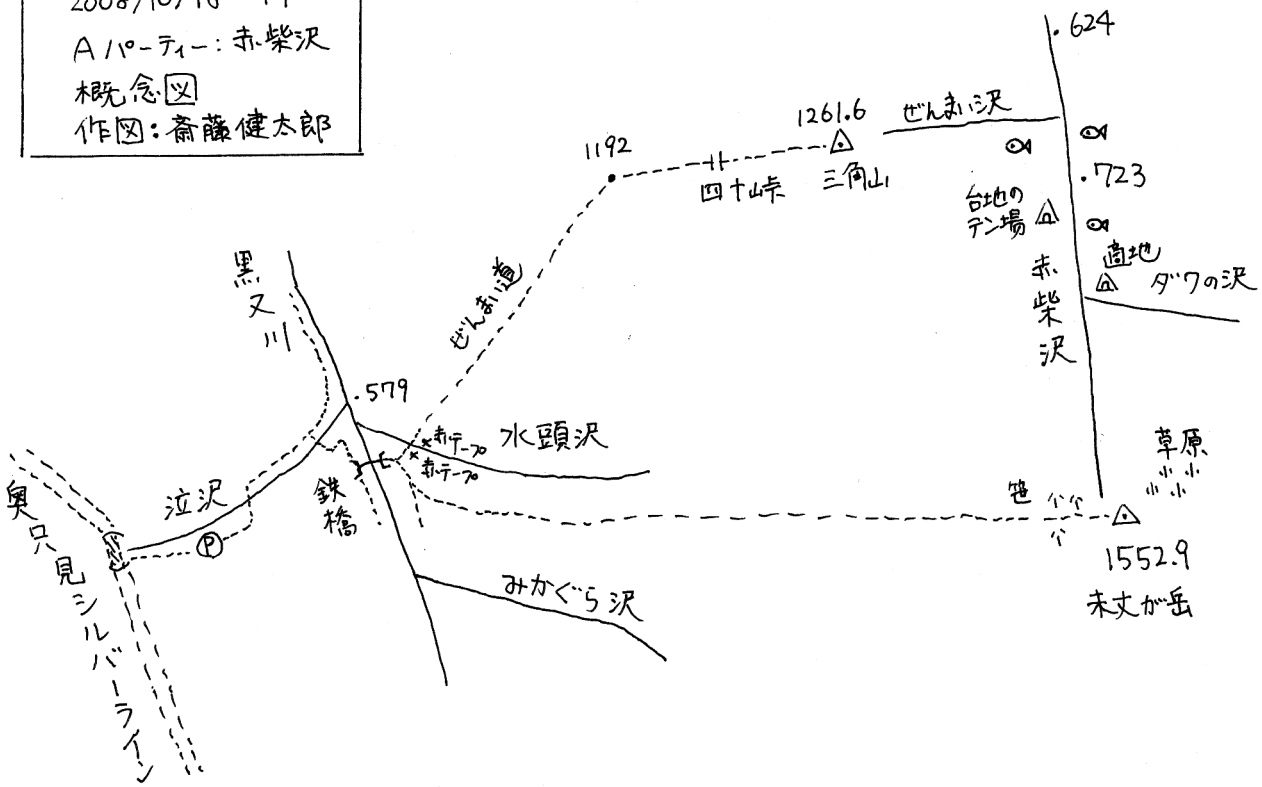
【行程】→：登山道/藪、～：沢

10/18：駐車場(7:30)→ぜんまい道入口(7:53)→1192m地点(9:44)→1261m三角山(10:44/11:00)→ゼンマイ沢水源(11:16)～２：３の二俣(12:15/30)～赤柴沢出合(13:22)～Ｃ１(13:55)

10/19：Ｃ１(6:48)～ダワノ沢出合(8:15/25)～赤柴沢水源(9:30/40)→稜線(10:18)→未丈ヶ岳(11:00/12:50)→駐車場(14:40)

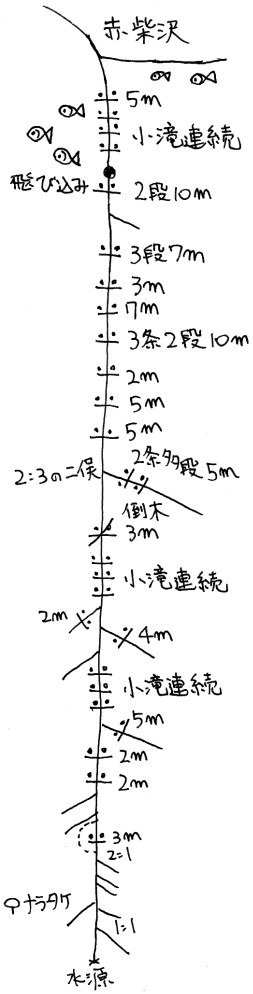
【地図】未丈が岳

2008/10/18～19
Aパーティー：赤柴沢
概念図
作図：斎藤健太郎

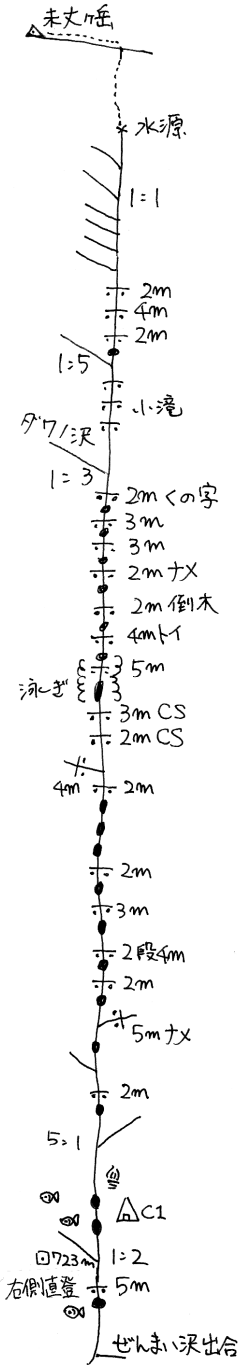


http://www.tomanokaze.dojin.com/

2008/10/18
Aパーティー：ぜんまい沢
作図：斎藤健太郎



2008/10/18~19
Aパーティー：赤柴沢
作図：斎藤健太郎



短い沢だが、意外と手強かった！　（Ｂパーティ）

黒又川　水頭沢

浅井

【日時】　2008年10月18日～19日
【メンバー】L浅井、田邊(一)、煤孫

10/18

7:40、泣沢登山口の駐車場を出発。駐車場ではＡパーティ(赤柴沢)・Ｃパーティ(御神楽沢)と一緒だったが、Ａパーティは最初から気合十分で、走るように一番に出て行った。我々は今日は半日行程なので、両パーティを見送ってからのんびり歩き出す。30分程山道を下ると黒又川にかかる赤い橋が見えてきた。その橋を渡り少し進むと未丈ヶ岳へと続く登山道と沢沿いに延びている山道との分岐に出た。どうやらこの左手の沢が水頭沢のようだ。その山道を少し辿り、適当な所から沢に降りる。

沢はゴルジュ状になっているが、水量は少なく、先週行った恋ノ岐に比べると沢のスケールは一回り小さい。広い河原は全くなく、全体の行程も短いので、どちらかというと日帰り向きの沢という感じである。ただし場所柄、東京から日帰りで行くのはかなりきついだろう。

悪場も特になく、また水に浸かる所もないので、きのこを探しながらのんびり進む。ナラタケはそこそこ採れたが、ナメコは見つからなかった。あとはブナハリが少しだけ採れた。

5m滝やちょっとしたゴルジュを問題なく越えていくと、早くも今日の幕場予定地に近づいた。05年8月に石井さんたちが遡行した時の幕場よりも少し先、8m直瀑の手前の左岸に三人で泊まれる適地があったので、時間はまだ12時と早いが、今日はここで泊まることにした。ここは地形図でいうと850m付近と思われる。焚き木は周囲に豊富にあるので、夜に備えて大量の焚き木を集め、ツェルトを張る。秋の日差しが照りつけ暑いくらいだ。今回は思いきってツェルトにして正解であった。

★幕場でゆったりくつろぐ

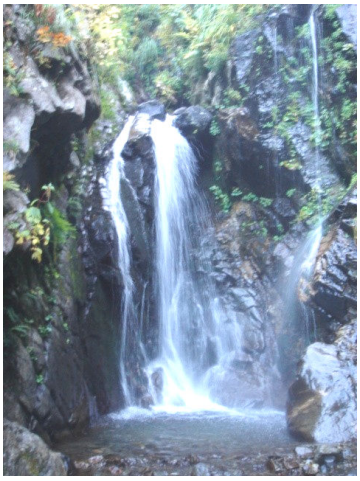
さて今宵の宿と宴会場が完成したところで、明日の朝のために8m直瀑の高巻きルートを工作することにした。この滝は登れないので右から高巻くしかないが、側壁は立っており高巻きも厳しそうだ。田邊さんがロープを引いて、慎重にルートを探っていく。ホールドは頼りない草しかなく、スタンスもぬめり気味で見た目以上に厳しそうだ。途中の岩には残置のシュリンゲがかかっていた。最後は一段と立ってくるが粘り強い登

攀で見事ロープを延ばし、上の木でロープをフィックスしてくれた。これで明日はかなりの時間の節約になるだろう。

一仕事終えたところで、幕場に戻り、まだ明るいうちから火を起こし、宴会が始まった。盛大な焚火とたっぷりの酒・つまみで至福の時を過ごす。きのこもおいしくいただき大満足の夜だった。夜は満月に近い月明かりが幻想的だった。

10/19

★高巻きが一番の核心だった 8m直曝



集中時間の12時に間に合うように(のはずだった…)早めに起きて、6:40出発。さっそく昨日ロープをフィックスした8m直曝の高巻きにかかる。田邊・浅井・煤孫の順に登ったが、フォローで登ってもかなり悪く、結局この朝一の高巻きで１時間弱を費やした。昨日のうちにロープを張っておいて本当によかった！

8m直曝の先の5m滝を越え、次の5mナメ滝を左から小さく巻くと、下部が立っている7m滝にぶつかる。ここは05年8月の石井さんの記録(月報10月号及び年報13号)で小暮さんが空身で登ったとある滝だろう。左壁から巻き気味に登れそうなので、私がロープを引いて空身で取り付いた。しかし途中の岩がかぶり気味で悪く、結局左の草付の急なルンゼ状に逃げて潅木で支点を取り、滝上に下りた。全員のザックを荷揚げした後、田邊さんが左壁からダイレクトに登ろうとしたが、岩を乗っ越した後のホールドがなく、結局最後はゴボウで登った。

この滝の上には深い釜を持った5m滝が続く。出だしが立っており、いやらしそうだが、田邊さんが水流の左からトライ。しかしスタンスが滑りやすく、途中で落ちで釜にドボン！　全身ずぶ濡れになってしまった。次に私が空身で取り付いたが、やはり途中で足を滑らせて同じようにドボン！　まったく見かけ以上にいやらしい。田邊さんが今度は空身で再挑戦。途中の潅木にかけたシュリンゲでうまくバランスを取りながら、やっと滝上に抜けた。この沢は大きな滝はないものの、このようないやらしい滝が多く、意外と時間がかかる。

10:15、1100mの二俣。ここから沢は未丈ヶ岳の頂まで一気に詰め上がる。沢は概ねゴーロ状で、水流も細くなってきた。しかし沢の切れ込みは深く、まだまだ滝は出てくる。まず3m前後の滝が三つ出てきたが、最初の滝はぬめっていて悪く、お助けのお世話になった。次は2段10mの黒い滝。ここは水流沿いに田邊さんが登るも、途中でつるつるになり、一歩が出せずに躊躇していたので、私が空身で右壁から登り田邊さんを上からフォローした。

最後の悪場は4mのCS滝。ここは中段のバンドを辿ってCSの下に出て、煤孫さんの肩を借りて私がショルダーで越えた。石井さんの記録ではシャワーでずぶ濡れになりな

がら越えたとあるが、今の時期は水量が少なく、半身が少し濡れた程度。田邊さんは濡れるのを嫌ったのか、右から高巻いた。

この後も小滝はいくつか出てきたが、厄介なものはもうない。傾斜が一段と強まると、やがて水は涸れ、沢は源頭の様相になる。11:30頃の無線交信で、皆がもう山頂に集まっているらしい雰囲気が感じられ、少しあせる。最後のヤブ漕ぎを考えると、12時に山頂に着くのは厳しい状況になってきた。

沢型が尽きるといよいよヤブに突入。山頂はすぐ近くに望まれ、皆の声も聞こえてくるのだが、ここのヤブは意外と手強く、容易には進まない。集中時間の12時を過ぎると、無線での催促も激しくなってきた。「すぐ直下にいるので、もう少し待ってくれ」と心の中で叫びながらヤブと格闘する。お互いに姿が見えないのがもどかしい！

ようやく登山道に出て、田邊・浅井・煤孫の順で山頂に到着。最後のマラソンランナーが皆の歓声を受けながらやっとゴールしたような妙な気分だ(笑)。結局集中時間の12時より30分程遅れてしまった。皆さんお待たせしてどうもスミマセンでした…。

水頭沢は後半の滝がいやらしく、そこそこ手応えのある沢だったが、きれいなナメや滝・ゴルジュが出てくるわけではないので、特にお勧めの沢とは言えない。しかしこのような集中山行で組むにはちょうどいい沢だと思う。私は未丈の沢は初めてだったので、今度はまた別の沢にも是非行ってみたい。

【行程】
10/18　泣沢登山口(7:40)～入渓(8:30)～850m付近の幕場(12:00)
10/19　出発(6:40)～未丈ヶ岳山頂(12:30)
【地図】未丈ヶ岳

★8m直曝の先の 5m滝を登る

★見かけよりも厳しく、左から高巻いた 7m滝

本当に入門者向きの沢だろうか？　（Cパーティ）

未丈ケ岳会山行　黒又川御神楽沢

笹川

【日時】2008年10月18日（土）～19日（日）
【メンバー】L 笹川、大野、鈴木

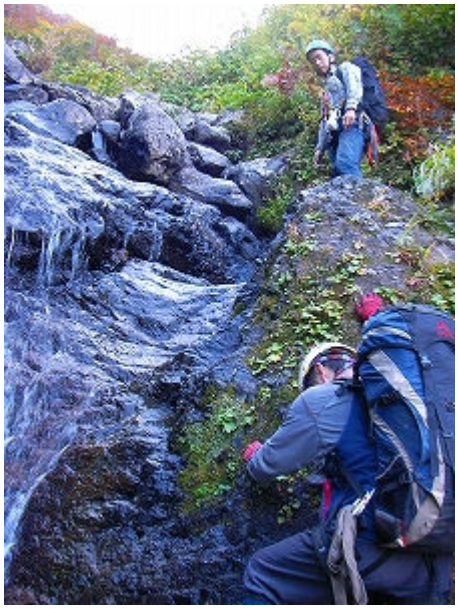
御神楽沢の事前情報は登山大系に入門者向きの沢とあるのみ。地形図を見ると1150M付近から山頂までの密な等高線が心配だ。

10月18日（土）

倒木を気にしながら登山道を進むと4月の会山行時に落ちた橋に到着。4月と比べると水量が少ないせいか、高度感がある。橋を渡るとみかぐら沢沿いに踏み跡があるが、思っていたよりしっかり踏まれていた。踏み跡が沢を横切る所で道が不明瞭になったので、遡行開始。

何もないゴーロ歩きが続くと思っていたら、泳がないと突破できないトロが出てきた。ここはどちらからも簡単に巻くことができる。またゴーロ歩きに戻り少し歩くと、明日の日帰りパーティのC1204に詰める沢が出てきた。その後、枝沢に入りキノコ探しをしてみるが収穫はゼロ。地形図のC678を過ぎ左から出てくる沢が今回のルート。ほとんどゴーロ歩きの沢だが、たまに出てくる滝は真っ黒い立った滝ばかりなので、登れない。

あまり奥まで進んでしまうと天場がなさそうなので早めに探し始めるが良い場所がない。C1472へ向かう沢の二俣手前と思われる場所に良い焚き火場があり、テントはその下に張ることにした。良い焚き火場というのは稜線の紅葉の展望が良く、木々が堆積しているからだ。さっそく、焚き火と宴会を開始。ビールを飲みながら、紅葉見物と焚き火とは今年一番の贅沢かもしれない。先週の山行が焚き火なしのツエルトで、雨の中蒸れてビショビショになったので、焚き火の素晴らしさを改めて感じた。今回、キノコはナラ茸しか採れなかったが、それぞれナラ茸つまみを作り、それなりに楽しめた。また、小ぶりだったがクレソンを生ハムで巻いて頂いたのがおいしかった。



10月というのに大野さんは焚き火前で就寝、時折ビューと風が吹いたが、テントに入ってくることはなかった。

10月19日（土）

天場近くにあったナラ茸をおみやげ用に採りながら、ゴーロを進む。心配していた1150Mあたりからもずっとゴーロだった。6Mの滝が登れず、左岸から巻き最後は懸垂で降りた。懸垂のセットをしていたら苔むした残置シュリンゲがかかっていた。その後、5Mの滝が出てきたがやはり登れず、左岸から巻いたが草が枯れて掴めず少し苦労した。この沢は、ちょっとした段差も滑っていて嫌らしかったが、大野さんも鈴木さんもアクアステルスでの登り歩きがうまく、フェルトとの差を感じさせない。

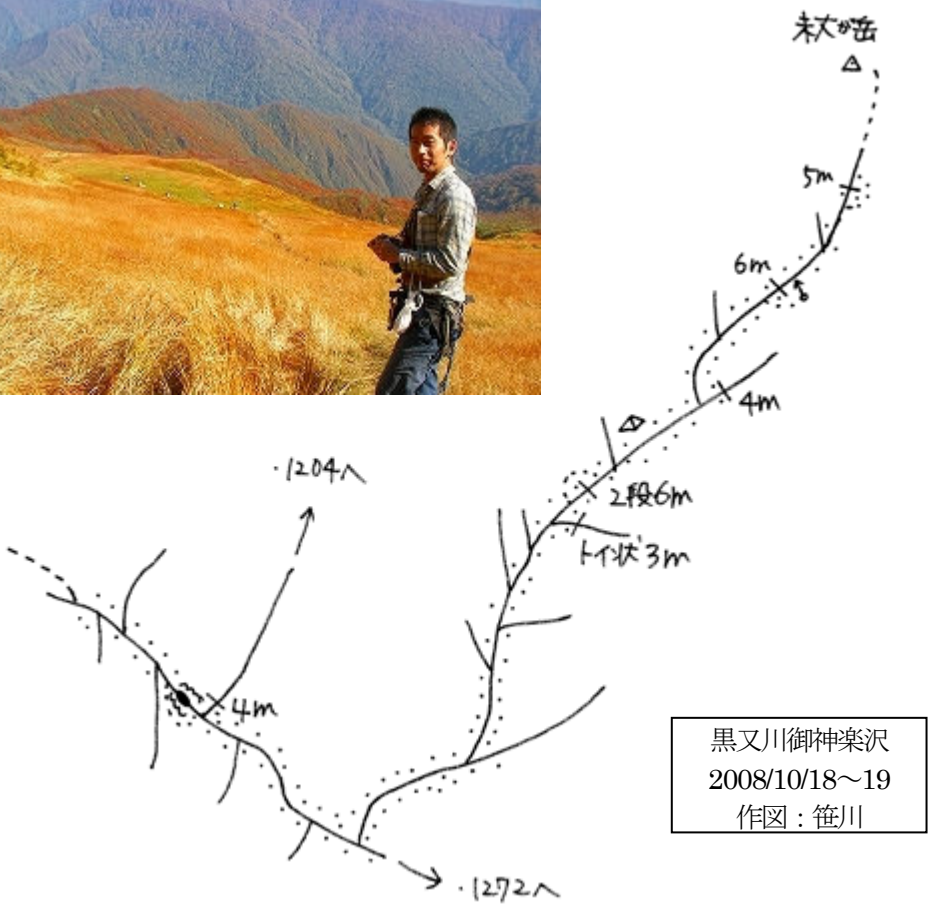
最後は、忠実に山頂に向かう沢を詰めたが、登山道には出られず。山頂に集まっているパーティの声が近くに聞こえ姿も見えるのに、藪漕ぎでなかなか合流できなかった。

滝の直登ができず、巻きが少し悪い感じだが、日帰り山菜山行にもお勧めしたい入門者向きの沢だった。秋の会山行らしいメンバー編成で、沢というよりも宴会を充分に楽しめて、良いわらじ納めになりました。

【グレード】3級　　【地図】未丈が岳、奥只見湖

【行程】10/18　泣沢登山口(7:40)～二俣(9:55)～天場（12:40）

10/19　C1(6:55)～未丈ケ岳（10:35/12:45）～泣沢登山口（15:30）



黒又川御神楽沢
2008/10/18～19
作図：笹川

会越　　毛猛／大鳥沢せいの沢

山口

【日時】２００８年１０月１８日～１９日
【メンバー】佐藤(耕)（Ｌ）、古野、山口

大鳥林道が通行禁止だった5～6年ほど前、滝ノ沢へのアプローチに、御神楽沢を詰めて尾根を乗っ越し、せいの沢を下ったことがある。その時の印象ではせいの沢は何も無い平瀬の沢で、滝ノ沢出合まであっという間に駆け下ったような記憶がある。

奥只見丸山スキー場から只見川左岸の林道を行く。今年の4月にラッセルして行った時と打って変わり、あっという間に上大鳥橋に着く。ここから山道に入るが、途中で踏跡がなくなり、送電線の鉄塔を目指して急坂を登り、送電線沿いに尾根を進み、最後は急な崖を大鳥沢出合に下る。湖岸沿いに藪を漕いで行った矢野パーティーは既に到着して、休んでいた。ここから15分程の滝ノ沢出合で矢野Ｐ、山川Ｐと別れる。大鳥沢本流、せいの沢は記憶の通り何もなく、一度6mの滝を左から巻いただけで順調に進み、左岸から支流が入るｃ800m付近にテントを張る。

翌日は出発して間もなくミニゴルジュとなる。前回はこのゴルジュの少し先C970m辺りで右岸から入る支流を下ってきたものと思われ、この先は未知の沢となった。何もないはずがすぐに6mの登れない滝に行く手を阻まれる。泥壁をスパイク足袋を履いてやっと登る。ｃ1070mの左岸からの支流を分けると2段8mの悪い滝になる。ここは左のボロボロのルンゼ状を登り、最後は佐藤君にお助けを出してもらい切り抜ける。詰めも滝ノ沢のようななだらかな草原ではなく、急な草付きで、スパイクを履くほどでもないがツルツルと滑り、ここでも最後の一歩は耕至君のお助けに助けてもらう。5年前より苦労するのはやはり年齢のせいか、と改めて実感した会山行だった。

【行程】10/18　奥只見丸山スキー場（8:00）～ 大鳥沢出合（10：45）～ 滝ノ沢出合　（11：00）～かうのき沢出合（11：50）～せいの沢出合（12：35）～ｃ800m付近BP

10/19 BP（6：15）～ ｃ970二俣（7：10）～ C1070二俣（8：25）～ 未丈ヶ岳（10：30-12：45）～ 泣沢口駐車場（15：15）

【地図】未丈が岳、奥只見湖

金色に輝く草原に迎えられて山頂一番乗り！（Ｅパーティ）

未丈ヶ岳集中会山行　大鳥川滝ノ沢左俣

石井

【日時】2008年10月17日～18日
【メンバー】山川（L）、木下、石井

爽やかな秋晴れの下、只見川左岸の林道ゲートを越えて上大鳥橋への車道を3パーティーでそぞろ歩きながら、思わず胸にこみ上げてくるものがあった。「ようやく山らしい山に来れた…！」ただでさえ家庭の事情もあり、山行日数が少ないところにもってきて、今年はその日に限って雨、転進、中止。山らしい山といえば、7月の連休以来となるのだから…。

40分ほど歩いて上大鳥橋からは送電線の巡視路に入る。最初は湖岸を行くが、白滝沢対岸より尾根の急登が続き、標高差250mものアルバイトとなる。ロープもあって歩きやすく、整備が行き届いているものの、トラバースから下降に入ったところの鉄塔でぱったりと途切れている。止む無く急な藪尾根と斜面を下っていき、大鳥川のバックウォーターに下り着く頃、湖岸の古い踏跡を探って進んだ矢野パーティーにばったり会う。踏跡はどうにか判然できる程度のものらしかったが、山の幸を見つけながら所要時間同じならそちらの方が正解であろう。

穏やかな広川原の本流を行くと程なく滝ノ沢出合で、せいの沢の耕至パーティーと分かれて本格的に遡行開始となる。谷は狭まるが水量は少なめ、釜を持った小ゴルジュは左から越えるが、概ねゴーロ歩きが多い。右岸が洞穴のようになったクランク滝は右から取り付き、上部は潅木帯に入って小さく巻く。いくらか開けた川原状となると、周りは美しい紅葉となっているというのに、雪渓の残骸が残っていた。昼過ぎには右俣との出合に着き、幕営地の少なさからここで泊まるという右俣パーティーと分かれ、こちらは核心部へと入っていく。

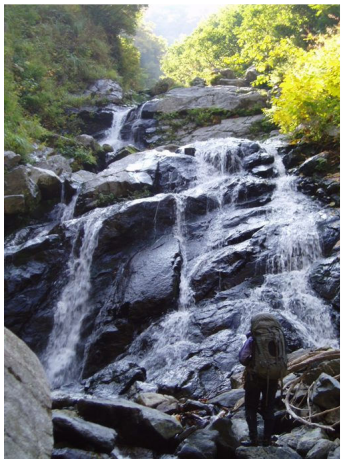
しばらくはゴーロとも滝とも判別しづらいような形で高度を稼ぐと、ようやく8、5mの滝らしいのが出てくる。3条滝や2条滝、続くナメ滝などは巻きあり、お助け使用ありで楽しく越えていく。山川さんは10月も半ばというのに果敢にシャワーでぬめった悪い滝に挑んでいくし…。さすがリーダー、3年越しの夢（？）で今回こそ山頂一番乗りで皆を迎えたいとか。意気込みが違うなあ。

しばらくで奥の二俣、本流の左は垂直の４ｍを皮切りに連瀑帯となっている。登山大系のアサギ同人の記録では「ホールドの全く無い旧流水溝を登る」とあり、過去二回のトマの遡行ではいずれも支流から尾根越えで巻いている。焚火の跡もあるので木下さん、山川さんは泊まるつもりだったところを、偵察してから少々強引に「登ろう」と誘う。4mは左壁から荷揚げで越え、2段目を越えた次の滝が問題の「ツルツル旧流水溝」だ。下部は詰まったチョックで少し高さを稼ぎ、しばらく考えた末に、右の細いクラックにナッツを利かせてプロテクションを取り、右壁の遠いホ

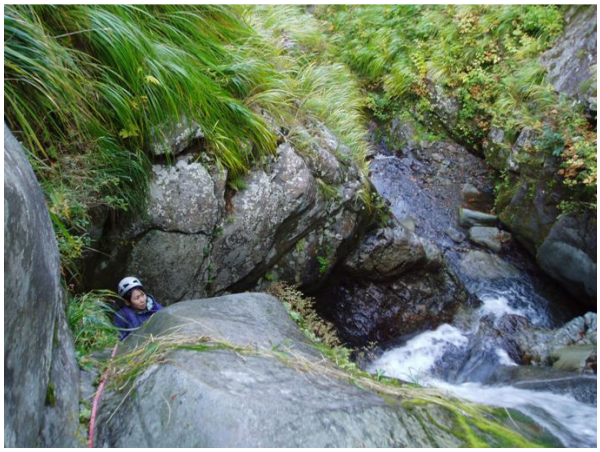
ールドを使いながら浅い溝をやっとの思いで這い上がった。

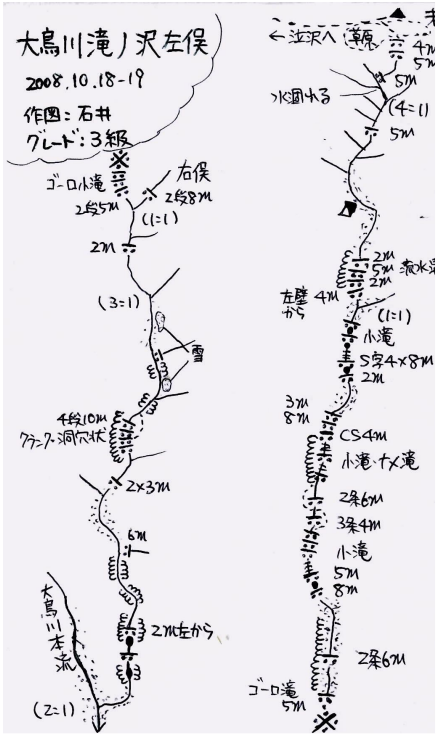
小一時間で悪場をクリアすれば、谷はゴーロにイタドリが茂って緩く開け、幕場が無いという話だったが、少し手を加えれば薪もある快適なテン場に変貌した。夜は星空の元で焚火を囲んでの芋煮。収穫物も加えて満ち足りた夜を過ごした。

翌日は本当に何も無かった。ゴーロで高度を稼ぐと1時間ほどで水が涸れ、最後の二つの涸滝を越えるのがボロボロで悪いくらいである。これを越えると窪の傾斜は緩み、藪漕ぎも無く金色に輝く頂上直下の草原に飛び出した。毛猛の山並をバックに感動のフィナーレ、山頂へも一番乗りでリーダーの念願達成。あとは他パーティーの到着を酒を飲みながらのんびり待つのみであった。



【コースタイム】
10月17日　林道ゲート（8:00）－下降地点（10:30/55）－下二俣手前（12:00/25）－1020m付近泊場（15:00）
10月18日　泊場（7:05）－未丈ヶ岳（9:00）
【地形図】1:25000　未丈が岳、奥只見湖、高幽山





会山行Fパーティー

大鳥沢滝ノ沢右俣

矢野

【日時】　2008年10月18日（月）～19日（日）

【メンバー】L矢野、棚橋、佐貫

今回は会山行、未丈ヶ岳 12:30 集中が目標。時間が今ひとつ読めないルートだったので、遅刻の不安を抱えての出発であった。

18 日（月）晴れ

我々のパーティーは滝ノ沢右俣。上大鳥橋から大鳥ダム左岸の踏跡を辿る。この踏跡は所々曖昧になるが、大鳥沢まで続いていた。巡視道を利用した他 2 パーティーと大鳥沢口で丁度会い、暫し山行を共にする。滝ノ沢に入ると沢は狭まり暗い印象。小ゴルジュと滝は特に難しいところはないが、ヌメッていて滑りやすい。720m二俣で左俣 P を見送り、早々に幕営。本当に明日の時間を心配しているのかと突っ込まれそうではあったが、ここ以外は稜線まで物件なかろう。実際にない。ここは増水には耐えられないが整地すればフルフラットで、薪は半径 5m 内にまる 1 日分はある快適な幕営地。一通り片付けて火を起こし、空を見上げるとお天道様は真上だ。少しずつ傾いていく太陽と季節の移ろいを重ね合わせ、焚火を前にこの山に身を委ねていく。食し、眠り、起きては小腹が空いてまた食し、薪をくべる。山の恵みも幸いにして適量。月夜も良い。風も寒さもない。虫もいない。個人的には今シーズン最高の幕営だったと感じている。

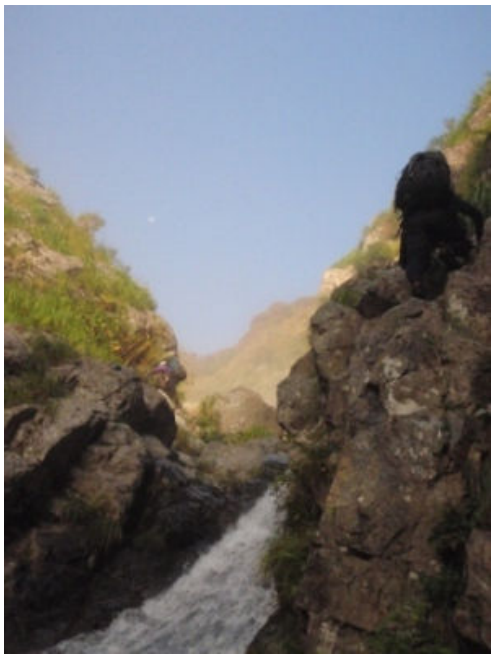
19 日（日）

長い行程になる可能性もあり日が昇るのを待ちきれずに出発。すぐに小さいゴルジュで 5-4-10m の滝がかかるがお助けで十分。小滝を二つ越えて核心の 10m ハング＆CS の滝。左の側壁にロープを引いて上部はトラバースで抜ける。ロープ 30m いっぱい。この直径 2m 程度の CS、今にも落ちそうな挟まり方である。後ろから小突きたくなる。これを越えると明るくなって、開放的。今日も空は青く、無性に嬉しくなる。

【早朝～最初の滝群～】

右に大鳥池方面に向かうルンゼを分け、すぐに二俣となってここを左へ行くが、貧相で本当にこちらで良いものかと何度も地図と照らし合わせて進む。すぐに水が枯れてしまう可能性があることも不安であったが、やはりすぐに枯れる。しかし藪は良心的密度で、稜線まで大した苦労も無く上がることができる。

ここで他パーティーと 9 時の無線交信すれば、昨日黙々と左俣に進んだパーティーが今まさに登頂したことを知り、驚いた。早すぎる。この先、当パーティーは左俣源頭に下りずに稜線をそのまま 1430m を経て未丈ヶ岳へと考えていたが、いざ行く末を眺めると正面の藪は濃く長く、お隣の沢は快適に見えたので沢へ下りることを即決し、そそくさと沢床へ。水が枯れていたが、そこから歩行に快適な階段状の源頭を詰めていくと未丈ヶ岳直下の草原に出た。草原は快適で暫しの休憩を挟む。頂上を見上げると人影がちらほら。トマな人々と思って嬉しくなって「おぉーぅい」「おぉーぅい！」「おぉーぅい！！」と手を振り体を振り、一生懸命もがくが反応がない。ここは登山道つきの山、他人であった。相手も無視すべきか少しは反応すべきかさぞかし悩んだことであろう。我々は何も無かったかのように、そのままぽくぽくと山頂へ。ようやく顔を赤らめたトマな人々と合流。後は全パーティーが揃うのを、賑やかに、のんびりと待つだけ。会山行は面白い。



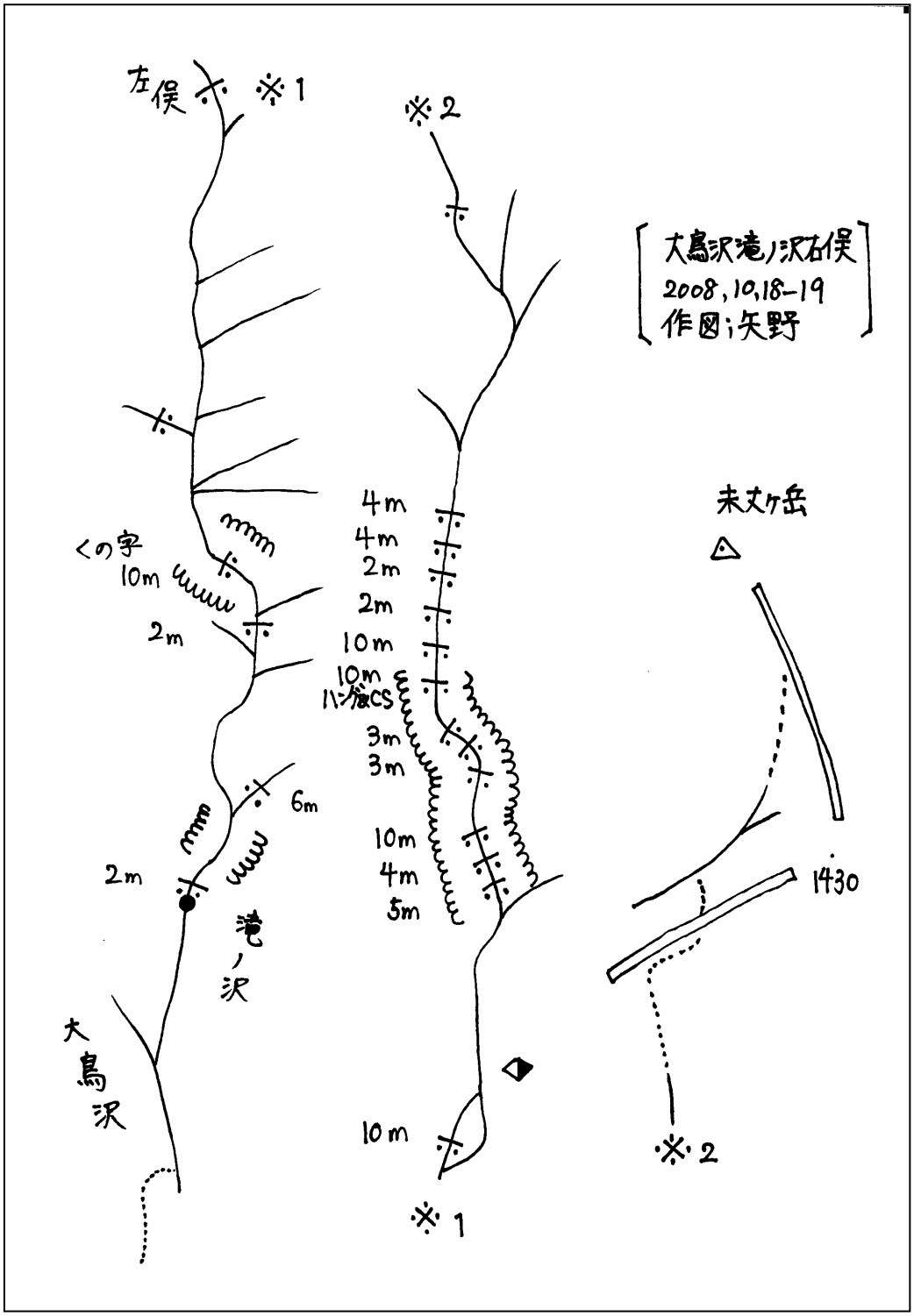
【沢は開ける～10m～】

【草原～山頂直下～】

【行程】10/18　駐車場(7:00)～上大鳥橋(7:35)～大鳥沢(10:30)～二俣C1(12:40)
　　/19　C1(5:40)～稜線(8:45)～未丈ヶ岳(10:20)

【地図】未丈ヶ岳

http://www.tomanokaze.dojin.com/


左俣
※1
※2
大島沢滝ノ沢右俣
2008,10,18-19
作図;矢野
くの字
10m
2m
2m
6m
滝ノ沢
大島沢
4m
4m
2m
2m
10m
10m
ハング
CS
3m
3m
10m
4m
5m
10m
※1
未丈ケ岳
1430
※2

山頂で きのこ汁　（Ｇパーティ）

越後

御神楽沢支流～未丈ケ岳

中村

【日時】2008年10月19日（日）
【メンバー】中村(L)、岩田、伊藤、栗原

山頂集中が12時半。日帰りＰには少し大変であるが、折角の会山行であるので、なんとか山頂での集合写真に納まりたい。

泣沢登山口に着くと、日帰り2本のハイキングパーティがテントを張っていた。出発は6時半。この季節のこの時間、さすがに寒い。御神楽沢に掛かる鉄橋を渡ったところから、登山道を離れ、踏み跡を歩く。意外と長く続いており、目指す支流の出合の1ｋｍくらい手前で入渓となる。

御神楽沢は意外と水量があり、この季節に遡行するには濡れを覚悟しなければならない。ゴルジュを伴った淵が出てきた。暑い季節ならへつりと泳ぎで突破できるが、寒いので無難に高巻いた。もう1箇所淵が出てきたが、後を歩いていた栗原さんがかなり手前のルンゼから高巻に入ってしまい、パーティが2分してしまうハプニングがあった。結局目指す出合で合流できたが、栗原さんは踏み跡を見つけ、そこを歩いてきたとのこと。

気を取り直して、支流に入る。出合には4m程の滝をかける。出合からしばらくは平凡な雰囲気であったが、しばらく進むと10m程の直登できない滝が3つほど現れる。栗原さんがルートを開いてくれる。さすが4級以上の沢ばかり行っているだけのことはある。見事なルートファインディングだ。

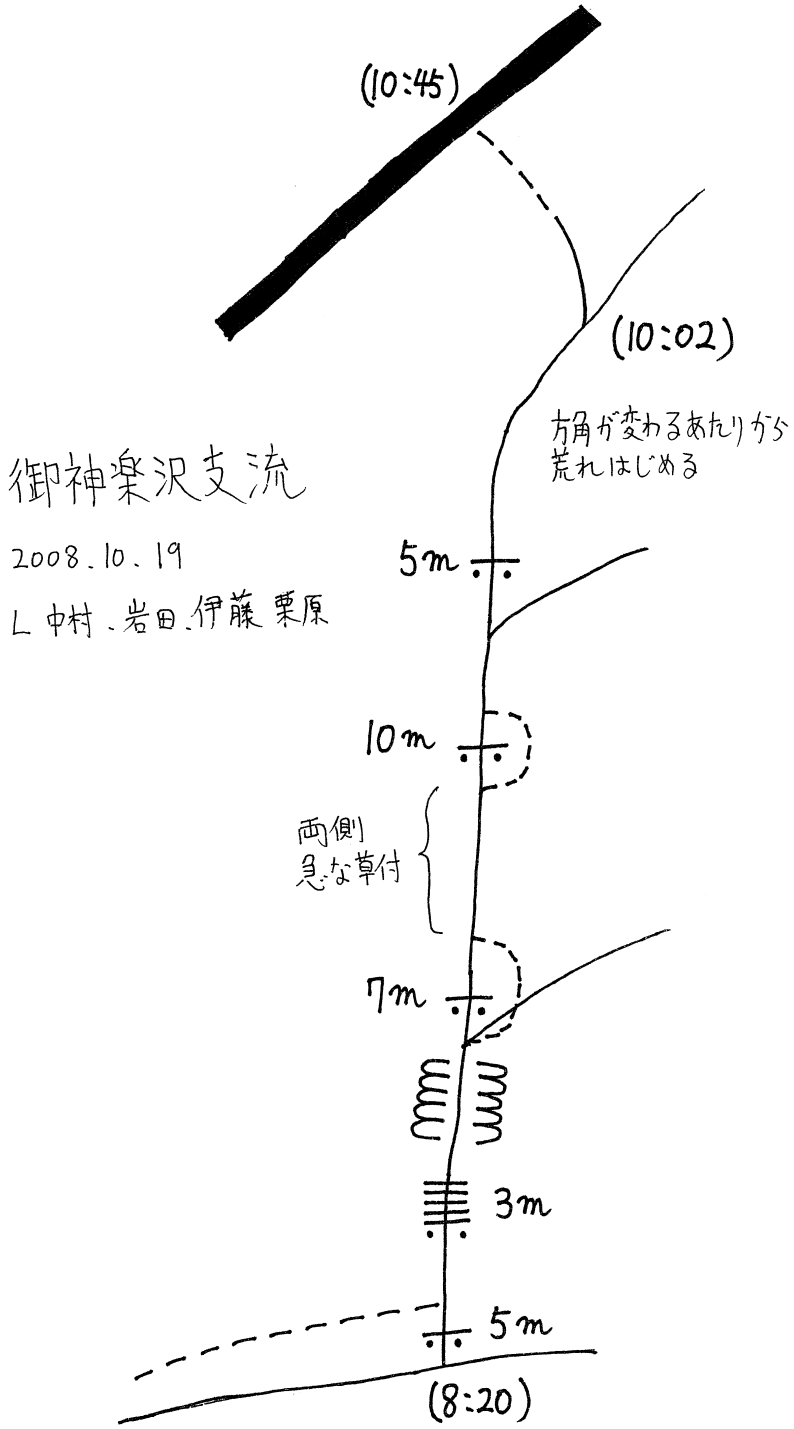
二股手前辺りで、温かい風が吹く。沢は右股の方が標高の高い所まで行っているが、途中で急な傾斜になることと、登山道に早くでて、12時半の集中時間に間に合わせたい思いから、左股に進むことにした。しばらくはガレた傾斜地を結構な量の水が流れていたが、突然水がなくなる。ここで水を汲み、スパイク足袋をつけて急な潅木帯を登る。30分ほどで登山道に出る。ここで、10:45。十分に間に合う時間なので、山頂を目指す。

11時の交信で浅井Ｐがまだ沢の中にいることが判明。その10分後に山頂に居る古野さんと交信し、２パーティ以外はすでに山頂に居ることがわかる。栗原さんのハイペースについていくこと1時間。12時前に山頂に到着。途中で収穫した、ナラ茸のきのこ汁を食べ、草紅葉の草原でくつろぎ、集合写真に写り、紅葉の登山道を下山。

考えてみれば、2003年以来の10月会山行。来年は焚き火の前で、きのこ汁を味わいたい。

【行程】泣沢登山口(6:36)－支沢出合(8:20)－二股(10:02)－登山道(10:45)－未丈ヶ岳山頂(11:47/12:47)－泣沢登山口(2:49)

【地形図】未丈が岳


(10:45)
(10:02)
方角が変わるあたりから
荒れはじめる
御神楽沢支流
2008.10.19
L 中村、岩田、伊藤 栗原
5m
10m
両側
急な草付
7m
3m
5m
(8:20)